



いっきゅうおしょう

## 一休和尚は、どんな人だったの



ほうろうの旅をしながら、一般の禅僧のあり方をひにくり、変わり者に見られた、えらいお坊さんだよ。

一休和尚は、正しくは一休宗純そうじゆんという名前です。1394年に、京都で生まれました。父は後小松天皇ごこまつてんのう、母は南朝の公家の娘です。うその告げ口をされて、宮中から追い出された母が、嵯峨さがの民家にかくれて産んだ、と伝えられています。

頭の良い小僧こそうだったらしい

6歳さいのときから、京都の安国寺あんこくじで、僧そうになるための教育を受けました。「一休ばなし」とよばれる、少年時代のさまざまな物語は、この時期にあたります。頭の良い小僧だったようですが、「一休ばなし」が本当のことであるとする証拠しょうこはありません。11歳か12歳のころから、お寺や住まいを転々と移り、いろいろなすぐれた僧の弟子になって、禅ぜんの勉強をしました。25歳で一休の名をもらい、27歳でさとりを開いて独立し、放浪の旅に出ました。

## 一般の禅僧のあり方に反発し、ひにくった

一休は、くらしは貧しいが、心は貧しくない生き方をしているのが、本当の禅僧だ、と考えていました。そのため、金らんのけさを着たりして、外側をかざり、心の貧しさをかくしている、一般の禅僧のあり方に反発し、彼らをひにくったので、変わり者に見られました。特に、朝廷ちやうていから「禅師ぜんじ」の称号しょうごうをもらって喜んでいる、大徳寺だいとくじの住持じゆうじやその弟子を、徹底的てっていてきにこきおろしました。

## 大徳寺の再建に努力した

81歳のとき、天皇から頼まれて、大徳寺の住持になりましたが、まもなくやめました。その後、応仁おうにんの乱らんで焼けた大徳寺の建物を、再建する事業の中心人物になりました。1481年、大徳寺の大部分の完成後、88歳なで亡くなりました。

